

第1回庄内町立図書館協議会 会議録

- 1 開催日時：平成25年5月23日（木）19時00分～20時50分
- 2 開催場所：庄内町立図書館 二階自習室
- 3 出席委員：小野寺姫、金内淳、館林由美子、工藤佳奈恵、日野淳、小野寺博
- 4 欠席委員：池田孝一
- 5 事務局：社会教育課長、図書館長、主査、主事補

進行：庄内町立図書館主査

1 開会 主査

2 委嘱状交付(社会教育課長)

3 あいさつ

○課長あいさつ

協議会委員の任期満了により、新たに就任された方、また継続してお引き受けいただいた方とも委員にご就任いただき大変ありがとうございます。今年度は、庄内町子ども読書活動推進計画の第二次計画策定の年で、読書の推進については学校地域支援事業などで学校図書館を中心に色々と力を入れており、子どもたちの読書量も伸び、読み聞かせや学校の活性化にも取り組んでおります。この図書館協議会では、委員の皆様からのご意見を聞いてより良い図書館の運営にしていきたいのでお力添えいただきたい。

4 自己紹介

各自自己紹介を行う。

5 委員長及び副委員長の選任について

推薦により 委員長：小野寺姫 副委員長：池田孝一 選任

6 報告事項 座長：小野寺会長

- ・平成25年度庄内町立図書館運営計画について
- ・平成25年度庄内町立図書館協議会年間計画について
- ・平成25年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画について
- ・平成25年度庄内町立図書館・庄内町内藤秀因水彩画記念館事業計画について

《事務局報告》

○報告事項について、今年2月の図書館協議会にも案を示していることから、特長的な事項のみ内容説明した。

《委員の質問・意見》

特になし

7 協議事項 座長：小野寺会長

(1)平成25年度事務事業評価（庄内町立図書館事業評価H24）について

- ①図書館運営事業(運営事業)
- ②図書館運営事業(読書感想文コンクール事業・読み聞かせ事業)
- ③生涯学習推進事業費(町民大学文学部・絵本はともだち事業)
- ④町立図書館開館100周年記念事業(落合恵子講演会・100周年記念誌作成)
- ⑤内藤秀因水彩画記念館運営事業

《事務局説明》

○(1)①～⑤まで事務事業評価の資料について内容説明

(委員長) 今説明ありました事務事業評価について、もう少し詳しく聞きたいところはありませんか。図書館は色々の課題があるが、大きくニーズを把握するところで今後の解決策について考えやアイデアをお聞きしたい。

(委員) 昨年度の本館と分館合わせた全体の貸出状況は減少しているが、分館の貸出冊数は昨年度より少しずつ増えている。担当者の熱意だけではないと思うが、具体的なところでどんなことが考えられるか。

(事務局) 分館と本館との本の配送は以前より増えており、立川地域の利用者がサービスの使い方慣れてきてうまく活用しているのがみえる。ただし、これが貸出冊数の増加につながっているかはなんともいえない。

(委員) いい傾向である。このままうまくがんばってほしい。

(委員) 立谷沢地区の方から本館にこういう本があるかなどの問い合わせがあるか。

(事務局) 余りない。

(委員) これは、遠隔地の利用者が本館をどう利用するかである。予約した次の日に立谷沢公民館に連絡した本が届くとすると利用者にとっては好ましいことである。狩川地域の利用者は、本館を結構上手に利用しているように見える。これは、今後の図書館建設がどこに位置するのかわからないが、遠隔地の利用者と太いパイプで連携していればいいのではと思う。

(委員長) 利用者は、自分の必要な本があると思うとどこにでもいく。必要プラス使いやすさ、居心地の良さが大事であり、平田の図書館に行ったり、大きい酒田の図書館に行ったりする。そのようなことを考えた場合、一般の利用者にとって、図書館にどういうことを望んでいるのかニーズの把握をどうするかだと思う。そろそろ具体的にしないと図書館への建設にはつながらない。ここは建設のための会議ではないが、図書館に対するイメージ、またどんな居場所だったら利用者がきやすく来れるのか考えるべきである。

(委員) 以前は、ここの図書館は午後5時で閉館だったが、現在は平日午後7時までなので利用しやすくなっていると思う。酒田の図書館は開館時間がもっと長く、仕事帰りの人が勉強できるようだ。もっと長い時間開館することも一つの方法だが、そうすると夜の図書館は貸出より勉強中心になってしまう気がする。

(委員長) 図書館に居場所を求めて余暇を過ごすことも大切だと思う。

(委員) 私自身、以前は分館から大人向けの本を借りていた。読み聞かせをするようになって、絵本ばかり借りている。最近この協議会へ参加ということになり、久々に分館の2階の読書の

部屋に行った。誰もいない所で本を選ぶことがうしろめたいような感じだった。静かな部屋で、読みたい本を選び、自分で電気を消し事務室で貸出の手続きをするが、本を借りにくいという印象をうけた。分館に愛着があるので、本館に読みたい本があれば別だが、まず身近な分館で本を借りるとするのが自然な感じだ。読み聞かせグループの仲間は、余目の本館に行って、絵本を選んでくる人も多い。

(委員) 2階に読書の部屋があるが、そこには職員もいない。図書館利用が慣れている人にとっても人気がない。もっと利用者がいれば臨時職員を配置できるかもしれないが、今利用者が少ない状況から配置もしない。

(館長) 分館は1階カンガルー文庫と2階読書の部屋に分かれてあり条件的に良くない。分館の運営日誌を見ても、1日利用者が十数人だったりもっと少なかったり、そこに臨時職員を配置することはやはり容易でない。電気の点灯などはもっといい方法があるかもしれない。

(委員) 分館は階が分散していることが問題で、1階のカンガルー文庫は仲間と集まって読み聞かせの練習をしたり楽しくやっているが、大人向けの本は2階にあるため、めったに利用せず帰ってしまうことが多いです。

(事務局) 分館の図書は1階と2階の部屋が同一箇所であれば、図書館システムの設置や人の配置も可能になると思うが、今の構造上無理だと考えている。地域の皆様から分館への要望や意見も余り届いてこないのも残念である。

(委員長) 分館の1階のホールに本を配置すると利用しやすいのではないだろうか。

(館長) 例えば本を1階のホールに配架し、会議の時はカーテンを使用したり常に本を目にする場所になる環境にすればいいと思っている。しかし大がかりな設備だと予算面でもかかるし、地域の人の意見が出てくると、より大きな声として反映できると思う。

(委員) 私は身近な分館の本からまず読もう利用しようと思っている。

(館長) ここの図書館では、新刊本なども早く借りられるので、酒田市の利用者の方も結構利用される方も多い。

(事務局) 町以外の読み聞かせのグループも大型絵本などを借りに来らえることも多い。

(委員) 日頃から思うことがあるが、狩川公民館の1階の交流の部屋や相談の部屋を一緒にして図書室にすればいいのと思う。

(課長) 狩川公民館の交流の部屋や相談の部屋は、現在用具室及び喫煙室になっている。相談の部屋は、以前は町史編纂でそこを使っていた。また1階に子どもの部屋があり、子どもたちが遊んでいたのも、そこに子どもたちが読む本をカラーボックスなどに置いていて、その後児童書や絵本を順次増やしていったように思う。この1階の交流の部屋や相談の部屋の壁を打ち抜いて図書室にする方法も考えられるが、これには公民館との話し合い、建物の構造上の検討等を要する。

(委員) 部屋の壁を打ち抜く費用はどの位の予算かかるのか。2階の読書の部屋を1階に持ってきただけで、図書室に足を向ける人が増える気がする。

(委員長) 庄内町の図書館として、全体の利用者を増やしていこうということになるが、分館について色々お聞きし、これまで知らなかったことに気づき良かったと思う。

(委員) 庄内町の広報によくパブリックコメントとか掲載されているが、図書館についての意見をもっと応募してもらい公開したらいいのでは。庄内町への意見とか、苦情や批判もあると思うが、それらを集約するのは良いことだ。

(館長) 新館建設の時には、アンケートのようなものが必要である。ただ建設が本決まりにならないので方向性が出ない段階では、出された意見に対してきちんと返答できない。現状の改善につながることや分館の利用も含めて利用者を増やすために何か取り組めるものはないか検討したい。

(委員) 館内に図書館に対する意見をもらうポストは設置できないか。

(事務局) 日頃から利用者の意見をいただきたいと思っているが、図書館建設が見えない中で、さまざまなご意見に対して、誠意のある回答ができないため、なかなか踏み切れない。

(委員長) 逆に町民のニーズをとってはじめて建設への足掛かりになるのではないか。私たち委員の声では、町民の声として実績は残せない。図書館は本を借りるところだけではなく、居場所的などころとしても求められている。子ども対象の事業ばかりでなく、一般の人が勉強したり、自分の時間を持ちたいとか、来館者を増やす観点から考えないといけないのではないか。

(館長) 現在の図書館は、ゆっくり会議できる場所がない。意見が出てきたとき言い訳しか返せない。現段階ではトイレを改修したいとか部屋を直すとか数千万経費がかかるようなこともできず、早く建設に対する方向性を決めてほしいと思っている。

(課長) これまで町内の小学校で耐震化してきた。町全体で数多くの大型事業をあれもこれもというは無理があり、図書館の建設も計画にあるが年次計画で考えていくことが必要で非常に難しい判断になると思う。

(委員長) 町民にとってそれぞれ大事なものがちがい、もっと別なものに力を入れてもらいたいと思う人もいるかもしれない。それでも、できるだけ具体的に図書館への意見を集めて進めなければならないと思う。

(委員) よく図書館を利用してくれる人に文書で要望や意見を募ったり、新規の利用者の方よりご意見を伺うとか対象者をしぼって渡す方法もあると思う。

(委員) 一般町民として、図書館を新しく建設するという計画があることは知らなかった。何億円も経費がかかるほどこの図書館は、老朽化しているのかよく理解できない。確かにここの場所はいいけど駐車場がもっと広ければいいとは思う。私は、分館の2階の読書の部屋を1階に持ってくる方が効果がみえるし、できそうなところから行うのがいいと思う。

(委員) 協議会の前段に館内を見てから会議を行えばよかった。一般閲覧室においては、開架の本はもういっぱい本を置けない。閉架に蔵書の半分はあるため、必要の都度職員が取りに行くしかなく、少ない人数の中で労力が大変である。これがもっと広い空間だったら、開架できる本がたくさん並び利用しやすい。また鉄筋コンクリートの構造上雨漏り等が発生し図書館も手におえない状況である。学校の耐震化もあるが、図書館は、子どもたちの成長にも欠かせないし、是非図書館の建設を位置付けてほしい。ただ狩川公民館にある分館の1階と2階を一緒にした対応を先にすれば立川地域の人たちがより図書館に関心もってくるかもしれない。

(館長) 町が平成17年に合併し、18年度には図書館建設整備検討会報告書も出され、その後

は建設場所についても検討されたが、町民の認識には至っていなかったと改めて思う。図書館の現状として、開架には本が半分しか出ておらず、絵本も非常に高い位置まで配架され、地震に対する危険性とかも心配される。DVDなどの視聴覚資料も貸出はできるが聞いたり見たりスペースはなく、会議室も研修室もない。本館を新しくしたとしても分館をなくすわけにはいかない。分館をなんとかするように、本気で考えなくてはならない。

(委員) 今の図書館を建設した時も、個人の利用者の声は反映しにくかったが、読み仲間のつどいなど集団の声が建設に反映された。結果的には国の補助事業で約1億円で建設されたが、郷土資料室や会議室は削られてしまい今日の図書館となっている。町の文化予算は厳しいが、今町民の声を何とか出してもらわないと図書館の建設は位置づけられないのではないかと思う。

(館長) 図書館に町民の声をいただくポストだが、課題が多く解決できないことがたくさん出てくると予想されるので、手法を検討してみる。

(委員長) これまで図書館を利用していない人から、どう利用してもらおうか。広報にみなさんの声を聞かせてくださいとか、図書館へどう意識を向けてもらおうかだと思ふ。

(館長) 人は、自分が興味があること、自分にとって大事なことは関心を持つが、そうでない事には関知しない。記念館にも町内の方よりかえって町外や県外の方が来館してくれたりする。もっと町内の方に来てほしいと思う。

(委員長) 子ども読書は、保育園や幼稚園、小学校と小さいときから推進しているので、その子どもたちが大人になっても自分の町に図書館があるんだと、そこまで継続できるものにしておかなければならないと思う。

(2)その他

《事務局説明》

「庄内町子ども読書活動推進計画」第二次計画の策定について、子ども読書に関わる関係機関（子育て支援センター・保健福祉課・保育園・幼稚園・小学校・中学校）において、代表者を中心に計画の見直し事項について話し合いをしていただき、10月下旬まで図書館に提出してもらうなど概要説明した。

8 その他

次回開催日程：平成25年10月24日（木）平成25年度全国公共図書館研究集会・北日本図書館連盟研究協議会・第33回山形県図書館研究大会へ参加

9 閉会 高橋主事補